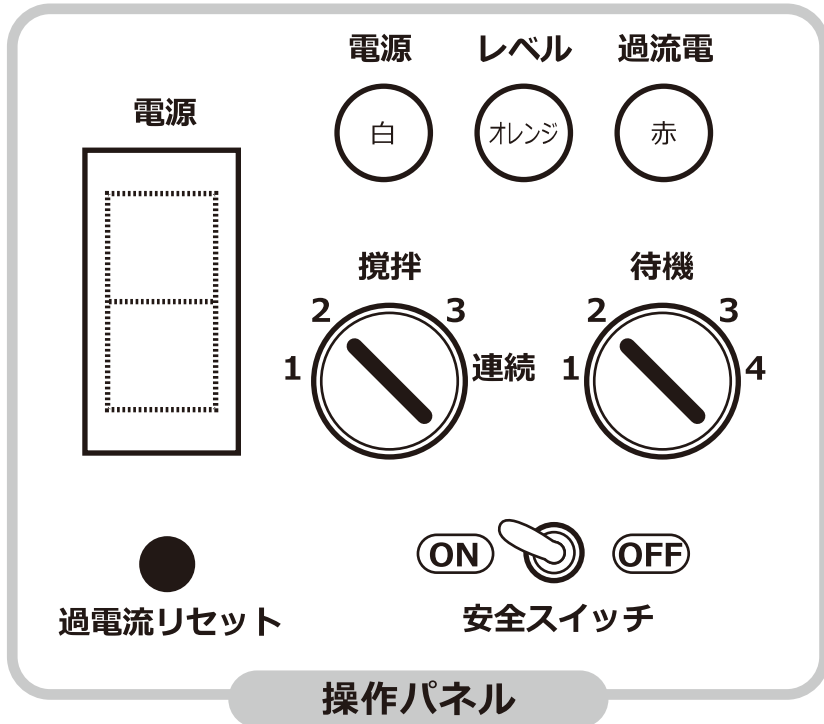


イーキューブの設置・立ち上げ動作確認

- ①給電・給水・排水、各接続を確認してください。
- ②イーキューブの運転開始 / 立ち上げ確認
※出荷時、攪拌スイッチ→2 待機スイッチ→2 に設定



③運転開始は盤内(主)ブレーカーNOにより、すべてのシステムが始動。

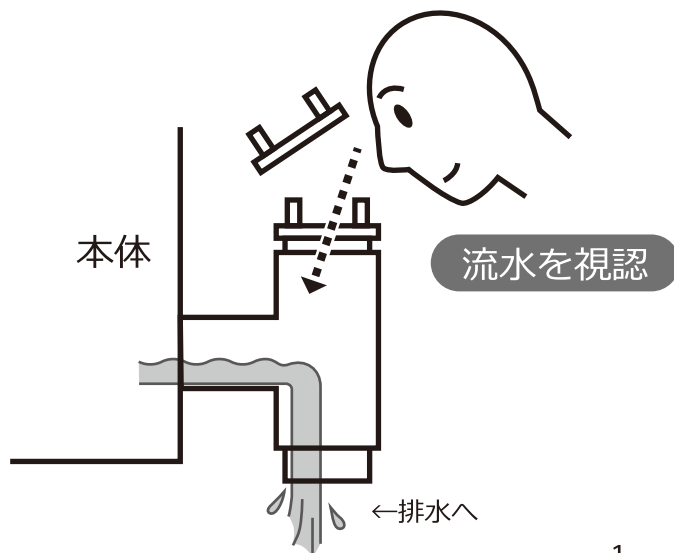
※電源投入により作動プログラムも始動し、電源再投入(入切)で動作プログラムもリセットされ、工程プログラムの冒頭に戻ります。

④電源ランプ点灯の確認

注意!
安全スイッチは通常運転時【常に ON】

【OFF】の場合、投入口を開けてもカクハンが停止しないため大変危険です!!

- カクハン → ⑤安全スイッチを OFF にして、投入口を開き、槽の内部を視認。 → ⑥カクハン羽根の回転を確認
※攪拌スイッチ「2」の場合 [小型 / 120 秒] 回転する [大型 / 150 秒]
- 上水散水 → ⑦槽奥上部の配管より散水を確認
※攪拌スイッチ「2」の場合 [小型 / 20 秒] 散水する [大型 / 30 秒]
- 下水(洗浄) → ⑧電源投入より [小型 / 110 秒] 後、排水口からの排水量の増加を確認
※排水口設置時、掃除口チーズ管の向きを考慮し、後日機器からの排水を確認できるように配管しておく。



イーキューブの処理・コントロール

■工程



※カクハン時間及び待機時間の可変により、処理能力を ±30%調整できる。

■基本設定

小型 / 大型ともに 攪拌スイッチ…「2」 待機スイッチ…「2」

	ダイヤル	「1」	「2」	「3」	「4」
攪拌	小型	60sec	120sec	180sec	連続
	大型	60sec	150sec	300sec	
	処理能力				
待機	小型	15min	30min	60min	120min
	大型	15min	30min	60min	180min
	処理能力				

■各ダイヤルの仕様

ダイヤル	「1」	「2」	「3」	「4」
攪拌	定格投入量より少ない場合	定格投入量の80%程度の場合	定格投入量オーバーの場合	投入量オーバー及び各復旧作業に使用。6時間以上の連続使用不可
待機	投入量が多い	定格投入量	投入量が少ない	長期間投入がない時(夏休み・正月休み等)
出荷時設定	—	標準設定として出荷	—	—

処理能力の調整

処理能力の調整は、実際のごみの投入量（1ヶ月以上）に対し、日々の槽内床面の増減（上下）により、能力調整を行います。しかし、あくまでも機種ごとの可能処理能力を上限とします。

また、イーキューブの生ごみ処理能力は、一般的生ごみ（残飯ほか炭水化物、肉、魚、野菜等の混合された生ごみ）においてであり、使用される施設により、生ごみの実際の内容・性質が異なる為、本来の処理能力は投入物によって変動します。

また、油脂についても分解能力は低く、特に液体としての油分は処理不可です。

【調整の目安】

1. 平均的投入が行われ、日々（週）の床面が

- 上昇していく場合：能力不足として、「攪拌時間を【長】」、「待機時間【短】」に適宜変更
- 下降していく場合：能力過多として、「攪拌時間を【短】」、「待機時間【長】」に適宜変更

注 各モードの変更を行っても、槽内の状況の変化は DAILY には現れず、3日から1週間の期間を要す

2. 上記1の調整により、床面の水準が DAILY で一定に保つことを目標とする。

3. ごみの投入量の著しい（平均を超える）増減があった場合、前もって前項の要領で調整を行う。
（再び平均に戻った場合、設定も必ず元に戻す。）

【長期間不使用時のモード設定】

1週間以内 …… 攪拌「1」、待機「4」に設定

1週間以上の長期 …… 3日のカラ運転（ごみの投入を一切行わない）の上、電源を切る。

（ブレーカーを切る。）運転開始（ごみ投入）は、電源再投入と同時でOK。

イーキューブを正常運転させるために

【毎日の点検】

1. 電源ランプの点灯、アラームランプの確認
2. 電源再投入で上水の出水を確認します。
※安全スイッチを OFF にして、投入口を開け、槽内上部奥からの出水を視認する。
3. 安全スイッチを ON にして、投入口・近接スイッチの確認。

電源再投入直後、投入口を開けて、

10 ～ 75kg 処理型

カクハン羽根の回転の停止
※電源再投入の直後、通常待機中は停止状態となるため

100 ～ 500kg 処理型

投入口アラームの点灯

4. レベルセンサーの動作確認

※安全スイッチを ON にて※

槽内右側板、左上部に突出しているレベルセンサー頭部と槽面とに金属を接触させ（アースされます）、レベルアラームランプの点滅を確認。

◎レベルセンサーに何も接触していなくてもレベルアラームランプが点滅している場合、センサーの汚れによる誤作動が考えられるため、水をかけた後、布きれ等で汚れを確実に拭き取ってください。

※イーキューブは給水が断たれると 2 ～ 3 日で強悪臭が発生するため注意！

5. 槽内の床面、水位（縦）の連日の推移を確認。

注 安全スイッチは通常運転時は『常に ON』にしてください。OFF の場合投入口を開けてもカクハンが停止しないため、大変危険です。

【処理できるものの把握・選別】

- 処理できるもの … 人間がそしゃく・消化できる範囲の食物残さ（ただし、油は不可）
- × 処理できないもの … 上記以外のもの。特に金属類は機器を破壊する恐れがあるため厳禁！

【イーキューブの生ごみ処理装置の運転】

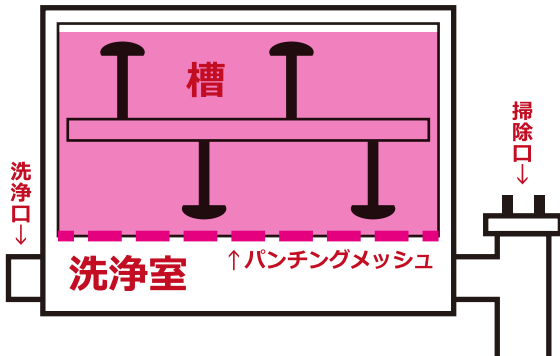
- 処理作業（発酵分解）が正常に行われているかの確認は、あくまでも槽内の床面の上がり下がり、床質の変化をもって判断します。
- 床面の上下（増減）は、その機種能力に適した生ごみの処理量であった場合、一定の床の高さで長期間保たれます。
- 床面が上昇した場合
 - ☆ 暫時上昇した場合 … 主に投入物の増加によるものと考えられ、別記機器の調整により床面の下降か、床面高の維持か、を調整します。
※カクハン、待機、各モードのダイヤルを変更。
 - ☆ 急激に上昇した場合 … 大量のごみの投入があったか、故障により水抜けが悪くなったと考えられます。
 - ☆ 床面が下降した場合 … おおむね処理能力の過多。調整にて処理モードを落としてください。
※カクハンダイヤル→【小】 待機ダイヤル→【大】
- 床 質
 - ☆ 床材（バイオチャフ）の主材はモミガラです。
 - ☆ 槽内の発酵分解が正常（良好）に行われている場合、全体として濡れてはいますが、水は切れている状態（モミガラのつぶが見える）であり、粘土状になっていくほど不良状態（悪化）となります。

水抜け故障対策と復旧 1

【満水事故と原因・水抜き】

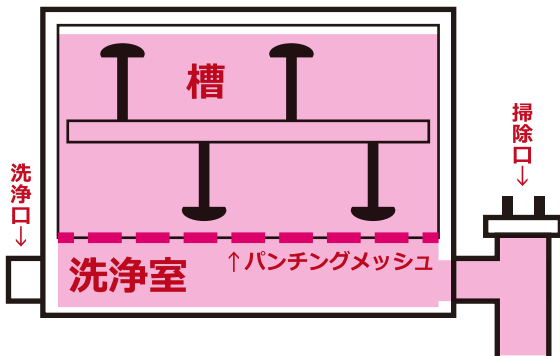
- ※1) レベルアラーム発報は水位=内容物が槽限界（MAXライン）に到達したとき発報し、同時に上下の給水を遮断するので、内容物が機器上部よりあふれ出すことはありません。
- ※2) 掃除口を開けるときは、原因状況の把握が困難なため、不用意に開けると、水分が噴き出してくる可能性があります。開栓は慎重に行ってください。特にケースBの場合は槽内の全量が噴き出す可能性があります。

ケースA



- レベルアラーム発報（レベルアラームランプ点滅）
内容物（水面）の外見は粘土状からおかゆ状。
運転をリセットしても、掃除口から見ても、水の排出は一切なし。

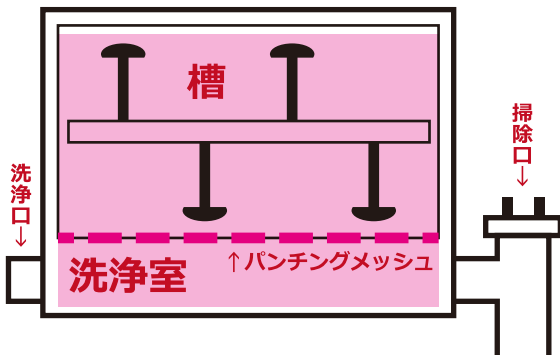
ケースB



- レベルアラーム発報（レベルアラームランプ点滅）
内容物（水面）の外見は水面状で、固形物が浮いているような状態。水は一見澄んでいる。
運転をリセットしても、掃除口から見ても、水の排出は一切なし。

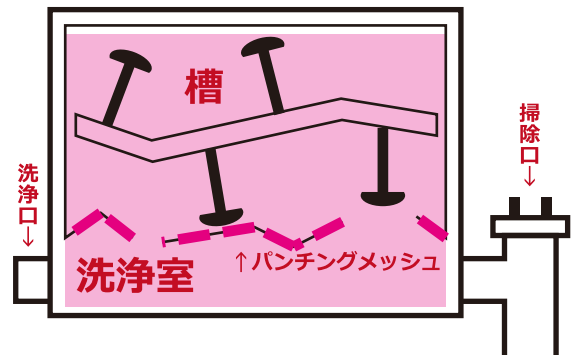
掃除口を緩めるだけでも内容物の水圧で、音と共に内容物が漏れ出てきますので、その段階で掃除口を締めてください。

ケースC



- レベルアラーム発報
内容物（水面）はBと同じ。

ケースD



- レベルアラーム発報
過負荷アラーム発報もあり。

水抜け故障対策と復旧 2

ケース A

水抜け悪化の原因は、粘液（粘土）状になった未分解物質（主にごはんつぶがおかゆ状になったもの）が、カクハン羽根先端と下部メッシュとの間をコーティングすることにより、水溜状態が出現します。また、目詰まりと同時に通常羽根先端とメッシュとの間をこそぎ、掃除している固形物も水の浮力により浮いてしまうことで、掃除作用がまったく無くなります。なおかつ上水給水と合わせ、悪循環となり、短時間で槽上端ライン（レベル発報）まで満水となってしまいます。

※レベル発報アラームは機器上下の給水を【断】とするので、槽よりあふれ出ることはありません。

●床質を粘土化する要因

- ・主に残飯（ごはんつぶ等の炭水化物）の投入比率が7割以上を占めると出現します。

◎大量のご飯類の投入があった場合は要注意！

●満水故障（レベル発報）に至らせない対策

- ・投入物内のご飯類の比率を下げる。 ←バイオチャフD剤（復旧用・多残飯ブレンド）を適量投入
- ・粘土化した床面が上昇してきた場合、直立したカクハン羽根先端より3/4を超えた時点において、カクハンダイヤル【4連続】にし、数時間運転します。

その結果、まだ床面に変化がない場合、バイオチャフD剤 or ワラ材等、繊維物質を適量投入し、【4連続カクハン】を行い、床面が下降したら元のモードに戻してください。

満水となった場合は復旧はかなり困難な作業となりますので、毎日の床面の変化を注意することが重要となります。

●満水故障（レベル発報）の復旧

- ・満水故障の場合、レベル発報の水位は、すでにカクハン羽根先端より上となっており、水・床面に隠れ、確認できません。

[復旧方法]

1. バキュームあるいは汲み出しを行う。→物理的に内容物を取り出す。
 2. カクハン羽根の先端に繊維、ワラ、布等をからめ、連続（強制）カクハンを行い、メッシュ面の粘土状になっている部分をはぎ取ります。つまりを除去すれば、必ず水は抜けます。
水位がカクハン羽根先端より下がったら、ワラ材、チャーフコアを投入してカクハン横軸（シャフト）まで床面・水位を下げます。
- ※水が抜けているかどうかの確認は、機器への給水を【断】にして（給水弁を閉める）、排水・掃除口から視認します。

水抜け故障対策と復旧 3

ケース B

閉塞箇所はイーキューブ機器より本配水管の場所までの詰まりであり、同事故を防ぐためには、イーキューブ設置時に配管の勾配を必ず取るようにしてください。

また、既設で、状態が悪いと思われる排水経路の場合は、半年ごとに洗浄メンテナンスを行います。

復旧については、排出側からの閉塞貫通を行うか、イーキューブ槽内から内容物の汲み出しを行い、水圧の下がったところで機器掃除口より貫通洗浄を行います。

ケース C

閉塞箇所はイーキューブ洗浄室出口での詰まりであり、ホース等を通水しながら掃除口より洗浄室に差し込み、貫通排出します。

※掃除口を上向きにすることで、一気に噴き出した内容物で外部を汚さず、復旧させることができます。

ケース D

⚠ 金属物の誤投入・混入は厳禁です！ ⚠

主に金属等の異物の混入により、カクハン工程中にカクハンアーム、パンチングメッシュの破壊により、内容物が洗浄室へ一挙に脱落し、閉塞してしまいます。

復旧はメーカー修理となり、時間も費用も長大なものとなってしまいます。

イーキューブを正常に継続運転するには、毎日槽内の状況を確認し、特に床面上昇があった場合、早めに対処・処置を行ってください。

イーキューブの特性として、槽内の適領域を超えると、カクハンによる酸素の供給が不足し、著しく発酵分解能力も低下、悪循環的に槽内の状態が悪化します。

他の主な故障&トラブル

●臭いの発生 … 異臭/悪臭

イーキューブは

- ①上水の給水が断たれると、2～3日後、悪(異)臭が発生します。
- ②許容以上のごみの投入でカクハン(酸素との混合)効率が落ち、悪臭が発生します。

①の場合⇒何らかの理由で機器への給水が断たれている

☆電源の再投入で上水が出ない(P.4 毎日の点検 2 の項目)

- I 機器への給水弁(蛇口)が締められている ⇒確認し開栓する
- II レベルセンサーの汚れ。アラーム誤発報により、機器の上下給水が停止している場合。
⇒レベルアラームランプが点滅していても、槽内のレベルラインまで内容物が達していない場合、センサー突起部の汚れを、水をかけ、布等でよくぬぐいとる事で回復する。
- III ストレーナーの詰まり ⇒ストレーナー内部を洗浄する
- IV 電磁弁の故障で給水されない ⇒弁の交換修理が必要

※上記の方法をI～IV順次お試しください。

②の場合⇒処理能力を最大にし、投入量を抑制して、槽の内容物を50%程度まで減らす。

どの原因であっても、悪臭の緊急処置として、槽内にホース等で水を大量に散水することは有効な手段です。

●機器の停止

電源ランプは点灯しているが、機能は停止している(昨日投入したものがカクハンされず、投入されたままになっている、等)。

⇒この症状の原因の多くは、投入口の近接スイッチのギャップ不良のケースが多数です。

近接スイッチは投入口を開けたとき、危険防止の為、主にカクハン作業(回転)を中止する機能があり、スイッチの隙間の変化、あるいはセンサーの老化により、感度が変わり投入口を閉じた状態でも【投入口開】と認識し、システムが【断】となってしまう場合があります。

この場合、電源を再投入(主ブレーカー 切/入)後、投入口を開け、金属製のものを投入口近接スイッチ頭部に押し当て、カクハン(軸の回転)が始まれば、このケースに該当します。

復旧には、ギャップの調整あるいは近接スイッチの交換を行います。

●他トラブルは取扱説明書の対処法一覧をご参照ください。